

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 4 月 21 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	柴田翔平

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

瀬戸臨海実験所、京都大学白浜水族館、京都市動物園、京都大学生態学研究センター、京都大学霊長類研究所、公益財団法人日本モンキセンター

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

インターラボ

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 29 年 4 月 4 日 ~ 平成 29 年 4 月 9 日 (6 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

京都大学

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)

本実習は、京都大学大学院理学研究科生物科学専攻が連携している各研究部局・施設を新入生が見学し、そこでの研究目標や研究方法、先端的な研究内容の概略を学び、様々な階層の生物学研究手法を取り入れるきっかけとなる機会である。

本実習は以下の日程で行われた。

- 4/4 ガイダンス、ウェルカムレクチャー
- 4/5 瀬戸臨海実験所
- 4/6 京都大学白浜水族館
- (4/7 入学式)
- 4/8 京都市動物園・京都大学生態学研究センター
- 4/9 京都大学霊長類研究所・公益財団法人日本モンキーセンター

以下より各日程の概要と感想を述べる。

○瀬戸臨海実験所

所内で 6 名の研究者による実験所概況及び研究紹介を受けた。各教員が異なる生物を対象に研究を行っており、若返りを行うベニクラゲと、超高速で腕を動かし貝殻を割るシャコについての研究は特に印象的であった。所内見学では、多種多様な無脊椎動物の飼育設備に加え、昭和天皇のご来訪を記念する石碑も見せていただいた。



研究棟



宿泊棟

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

○京都大学白浜水族館

見た目の派手な魚類や大型の生物を展示している多くの水族館と異なり、ここでは白浜周辺に生息している無脊椎動物、魚類が展示されていた。無脊椎動物は分類ごとに展示されており、同じ分類の生物同士を見比べることができてよいと感じた。また、バックヤードも見学でき、魚へのエサがどのように保管されているのかを見ることができた。

○京都市動物園

京都市動物園には入学前にも何度か来たことがあったため、特に新鮮な事はないと考えていたが、田中正之教授の説明を受けながらの園内見学であったため、見ているだけでは知ることのできない動物園の歴史を知ることができた。ゴリラのような繁殖の難しい動物は、近い将来動物園でも見ることができなくなるかもしれない、という話には驚いた。また、飼育されているチンパンジーのメス一頭の性皮が腫れていて、オスがそのメスの後をついて回っている様子を見ることができ、野生動物を対象とした研究を行う自分にも学べるのが沢山あると感じた。



京都市動物園のゴリラ

○京大大学生態学研究センター

若手研究者による研究紹介を受けた後、施設内を見学した。水生、陸生どちらも任意の環境の中で飼育観察できるシンバイオトロンは、まだまだスペースが余っており、これからの研究の可能性を感じた。安定同位体質量分析計の説明では、我々大学院生でも申請をすれば使えたと説明され、共同利用研究施設があらゆる研究者に開かれていることを学んだ。

○京都大学霊長類研究所

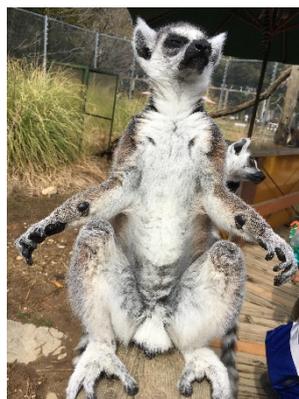
ニホンザル放飼場、スカイラボ、資料室を見学した後、湯本所長の施設紹介を受けた。入学後のオリエンテーションで研究所に関する説明は受けていたものの、チンパンジーがタスクをこなす様子を間近で見られたのは新鮮だった。

○公益財団法人日本モンキーセンター

モンキーセンターの歴史、現在の活動内容の説明を受けた後、園内を見学した。60種類以上の霊長類が飼育されており、時間内にすべてを見て回ることはできなかった。ワオキツネザル、リスザルは放し飼いにされており、それぞれ間近で観察することができた。また、クモザルがつり橋からぶら下がる様子を観察でき、来訪者が楽しみながら各種霊長類の持つ特徴や能力について学ぶ機会が多数用意されていると感じた。



フクロテナガザル



ワオキツネザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

本実習を通して、霊長類研究所からの参加者はもちろん、それ以外の参加者とも交流する機会が得られた。自分の研究領域と異なる分野を専門とする学生との会話は非常に新鮮で面白く、視野を広げるきっかけとなった。今後も時折研究に関しての話をしたいと思った。施設見学や研究紹介によって様々な分野の研究についての知識を得られ、またその分野の学生との交流によってそれらを身近に感じることができるこの実習は、貴重な経験であった。

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。感謝申し上げます。